

別紙5 2021年度自己点検・評価シート（学生受入）

学部・研究科名 教育学部
責任者名 山本 博文

【自己点検・評価シートについて】

- ・各学部・研究科は、学士課程及び大学院課程について、それぞれ点検・評価を実施する
- ・以下の評価項目について、点検を行い、自己評価（3段階評価）を行ってください。
 - 評価
 - A：評価項目について、適切に実施している（基準を満たしている）。
 - B：評価項目について、概ね実施している（概ね基準を満たしている）。
 - C：評価項目について、実施していない（基準を満たしていない）。
- ・報告事項欄には、評価項目について、当該年度における取組状況や改善状況等について統括し、簡潔に分かりやすく説明してください。
- ・改善すべき点とその改善方策欄には、点検・評価を行った結果、改善すべき点があった場合、その内容と対応方策について記載してください。

【点検・評価項目】	自己評価
<p>1. 学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方が明示されているか。</p> <p>○点検事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「求める学生像」に、入学前に学習しておくことが期待される内容が含まれているか。 ・「入学者選抜の基本方針」に、入学者受入方針を具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用し、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのかに係る記述が含まれているか。 ・学士課程については、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素：（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）についてどのような成果を求めるか）についての記述が含まれているか。 <p>※A 評価の基準：学生受入方針に上記3点（大学院課程では最後を除く2点）が含まれている。</p>	B
<p>2. 学生受入方針に沿って、受入方法（入学者選抜の方法）を採用しており、実施体制により公正に実施しているか。</p> <p>○点検事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学士課程、大学院課程ともに入試の種類ごとに、入学者選抜の方法（学力検査、面接等）が入学者選抜の基本方針に適合しているか。 ・入学者選抜の試験実施にかかる実施要領、実施マニュアル等は整備されているか。 <p>（要項、マニュアル等の名称： 全ての学部の入試の選抜区分において実施要項を作成している。 令和4年度教育学部総合型選抜Ⅰ実施要項 令和4年度教育学部学校推薦型選抜Ⅰ実施要項 令和4年度教育学部学校推薦型選抜Ⅱ実施要項 令和4年度教育学部一般選抜（前期日程）実施要項</p>	B

<p style="text-align: center;">令和4年度教育学部一般選抜(後期日程)実施要項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接, 実技試験等において評価の公正性を担保する組織的取組の状況を示す資料(面接要領等)はあるか。 (資料の名称: 面接等の留意事項 〔面接評価表, 実技は採点表にて公正に評価を行っている〕) ・入試委員会等の実施組織及び入学者選抜の実施体制(組織の役割, 構成, 人的規模・バランス, 組織間の連携・意思決定プロセス・責任の所在等)は整備されているか。 ※A 評価の基準: 上記4点について不備・不足はない。 	
<p>3. 学生受入方針に沿った学生の受入が行われているかどうかを検証するための取組を行っているか。また, 必要に応じてその結果を入学者選抜の改善に役立てているか。</p> <p>○点検事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の受入状況を検証する組織(入試委員会など), 検証方法を確認できる資料があるか。 (資料の名称: 学生の受入状況を検証する組織 ・教育学部入試検討小委員会要項) ・学生の受入状況を検証し, 入学者選抜の改善に反映させたことを示す具体的事例等(改善のための情報収集等の取組を含む)があるか。 (具体的事例: ・教育学部では, 入試検討小委員会で, 学校推薦型選抜 I において, 令和4年度嶺南地域枠の実施に向け検討を行った。 ・工学部では, 入試の在り方検討 WG において, 県内志願者の確保に向けて検討を行った。高大接続型入試の導入の検討も行った。) <p>※A 評価の基準: 上記2点について不備・不足はない。</p>	A
<p>4. 過去3年間の実入学者数が入学定員に照らし適正であるか, テーマ別様式⑧に基づいて確認する。 ※A 評価の基準: 「入学定員に対する実入学者数の割合」が過去3年間 0.9 以上かつ 1.1 未満 C 評価の基準: 「入学定員に対する実入学者数の割合」の過去3年間の平均が 0.7 未満又は 1.3 以上 (認証評価では, 0.7 未満の場合が「大幅に下回る」, 1.3 以上の場合が「大幅に超える」と判断される。また, 法人評価では, 当該年度において 0.9 未満又は 1.1 を超える場合に, 文部科学省から状況確認のため理由を求められる。)</p>	A

【報告事項】

※取組状況(課題の改善状況及び特筆した成果等の状況を含む)又は現在の状況について、総括したうえで簡潔に分かりやすく説明してください。

新しい入試区分である「学校推薦型選抜Ⅰ 高大接続型(嶺南地域枠)」を11月20日に実施し、募集人員10名に対して23名の志願者があり、プレゼンテーションを含む選考の結果10名の合格者を決定した。合格者に対して今年度中に入学前教育の実施を計画している。

【改善すべき点とその改善方策】

※自己点検の結果、改善すべき点があった場合は、その内容(どの項目について分かるように記載)と改善の方策(現在検討中でも可)を記入してください。

上記「1」「2」については、全学の方針に沿って上記点検項目への対応を含めアドミッション・ポリシー等の修正を行っており、今年度中にA評価の状態に改善する。

以下、記載不要

【教育内部質保証委員会による意見】

- ・新カリキュラムに合致する入学者選抜が行えているか否かについての点検はなされているでしょうか。
- ・項目1については、全学的な学士課程ポリシー見直しにより、改善されている。

学部・研究科名：医学部

責任者名：医学部長 藤枝 重治

【自己点検・評価シートについて】

- ・各学部・研究科は、学士課程及び大学院課程について、それぞれ点検・評価を実施する
- ・以下の評価項目について、点検を行い、自己評価（3段階評価）を行ってください。

○評価

A：評価項目について、適切に実施している（基準を満たしている）。

B：評価項目について、概ね実施している（概ね基準を満たしている）。

C：評価項目について、実施していない（基準を満たしていない）。

- ・報告事項欄には、評価項目について、当該年度における取組状況や改善状況等について統括し、簡潔に分かりやすく説明してください。
- ・改善すべき点とその改善方策欄には、点検・評価を行った結果、改善すべき点があった場合、その内容と対応方策について記載してください。

【点検・評価項目】

自己評価

1. 学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方が明示されているか。

○点検事項

- ・「求める学生像」に、入学前に学習しておくことが期待される内容が含まれているか。
 - ・「入学者選抜の基本方針」に、入学者受入方針を具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用し、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのかに係る記述が含まれているか。
 - ・学士課程については、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素：（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）についてどのような成果を求めるか）についての記述が含まれているか。
- ※A 評価の基準：学生受入方針に上記3点（大学院課程では最後を除く2点）が含まれている。

B

2. 学生受入方針に沿って、受入方法（入学者選抜の方法）を採用しており、実施体制により公正に実施しているか。

○点検事項

- ・学士課程、大学院課程ともに入試の種類ごとに、入学者選抜の方法（学力検査、面接等）が入学者選抜の基本方針に適合しているか。
- ・入学者選抜の試験実施にかかる実施要領、実施マニュアル等は整備されているか。
（要項、マニュアル等の名称：
・医学部の入試の選抜区分において実施要項を作成している。

A

【学士課程】 ・医学部一般選抜実施要項（前期日程、後期日程）

・医学部看護学科学学校推薦型選抜Ⅰ実施要項

・医学部医学科学学校推薦型選抜Ⅱ実施要項

・医学部医学科学士編入学者選抜実施要項

<ul style="list-style-type: none"> ・面接、実技試験等において評価の公正性を担保する組織的取組の状況を示す資料(面接要領等)はあるか。 (資料の名称: 医学部医学科一般選抜(前期・後期日程)面接実施要領 医学部看護学科一般選抜(前期・後期日程)面接実施要領 医学部看護学科学校推薦型選抜Ⅰ面接実施要領 医学部医学科学校推薦型選抜Ⅱ面接実施要領 医学部医学科学士編入学者選抜最終選考面接実施要領 〔面接評価表にて公正に評価を行っている〕) ・入試委員会等の実施組織及び入学者選抜の実施体制(組織の役割, 構成, 人的規模・バランス, 組織間の連携・意思決定プロセス・責任の所在等)は整備されているか。 ※A 評価の基準: 上記4点について不備・不足はない。 	
<p>3. 学生受入方針に沿った学生の受入が行われているかどうかを検証するための取組を行っているか。また, 必要に応じてその結果を入学者選抜の改善に役立てているか。</p> <p>○点検事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の受入状況を検証する組織(入試委員会など), 検証方法を確認できる資料があるか。 (資料の名称: 学生の受入状況を検証する組織 ・医学部入学試験委員会要項) ・学生の受入状況を検証し, 入学者選抜の改善に反映させたことを示す具体的事例等(改善のための情報収集等の取組を含む)があるか。 (具体的事例: ・看護学科では、看護学科入試改革WGにおいて、志願者の確保及び総合型選抜入試の導入等に向けて検討を行った。 ・医学科では、医学科入試改革 WG で推薦入試の地域枠と福井健康推進枠の定員及び卒後研修条件を検討し、地域及び附属病院のニーズに対応できるように改善した。) <p>※A 評価の基準: 上記2点について不備・不足はない。</p>	A
<p>4. 過去3年間の実入学者数が入学定員に照らし適正であるか, テーマ別様式⑧に基づいて確認する。 ※A 評価の基準: 「入学定員に対する実入学者数の割合」が過去3年間 0.9 以上かつ 1.1 未満 C 評価の基準: 「入学定員に対する実入学者数の割合」の過去3年間の平均が 0.7 未満又は 1.3 以上 (認証評価では, 0.7 未満の場合が「大幅に下回る」, 1.3 以上の場合が「大幅に超える」と判断される。また, 法人評価では, 当該年度において 0.9 未満又は 1.1 を超える場合に, 文部科学省から状況確認のため理由を求められる。)</p>	A

【報告事項】

※取組状況(課題の改善状況及び特筆した成果等の状況を含む)又は現在の状況について、総括したうえで簡潔に分かりやすく説明してください。

- ・医学科入試改革WGにおいて、福井県地域医療及び本学附属病院の強化を目的に、医学科推薦入試の地域枠、福井健康推進枠の定員見直しと卒業後の研修条件の見直しを検討し、改善案を作成、医学部入学試験委員会、教授会で決定した。(令和元年度)
- ・看護学科入試改革WGにおいて、志願者の確保及び総合型選抜入試の導入等の検討を行うとともに、(株)KEIアドバンスによる外部コンサルテーションを実施した。また、ホームページの改修を計画しており、3年度中に実施する。

【改善すべき点とその改善方策】

※自己点検の結果、改善すべき点があった場合は、その内容(どの項目についてか分かるように記載)と改善の方策(現在検討中でも可)を記入してください。

- ・1については、策定ガイドライン及び機関別認証評価基準に沿ったものに修正するように対応中である。(第3期4年終了時法人評価現況調査結果書面調査シートに挙げられたコメント項目)

以下、記載不要

【教育内部質保証委員会による意見】

- ・両学科ともに学部単独ではなく、附属病院を中心とした関連病院との関係やキャリアプランを考えた生涯学習の場としての学部の在り方、それを踏まえた入試戦略へ一層の取り組みを期待します。
- ・項目1については、全学的な学士課程ポリシー見直しにより、改善されている。

学部・研究科名 工学部

責任者名 福井 一俊

【自己点検・評価シートについて】

- ・各学部・研究科は、学士課程及び大学院課程について、それぞれ点検・評価を実施する
- ・以下の評価項目について、点検を行い、自己評価（3段階評価）を行ってください。

○評価

A：評価項目について、適切に実施している（基準を満たしている）。

B：評価項目について、概ね実施している（概ね基準を満たしている）。

C：評価項目について、実施していない（基準を満たしていない）。

- ・報告事項欄には、評価項目について、当該年度における取組状況や改善状況等について統括し、簡潔に分かりやすく説明してください。
- ・改善すべき点とその改善方策欄には、点検・評価を行った結果、改善すべき点があった場合、その内容と対応方策について記載してください。

【点検・評価項目】

自己評価

1. 学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方が明示されているか。

○点検事項

- ・「求める学生像」に、入学前に学習しておくことが期待される内容が含まれているか。
- ・「入学者選抜の基本方針」に、入学者受入方針を具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用し、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのかに係る記述が含まれているか。
- ・学士課程については、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素：（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）についてどのような成果を求めるか）についての記述が含まれているか。

※A 評価の基準：学生受入方針に上記3点（大学院課程では最後を除く2点）が含まれている。

（根拠：資料「工学部アドミッション・ポリシー」）

A

2. 学生受入方針に沿って、受入方法（入学者選抜の方法）を採用しており、実施体制により公正に実施しているか。

○点検事項

- ・学士課程、大学院課程ともに入試の種類ごとに、入学者選抜の方法（学力検査、面接等）が入学者選抜の基本方針に適合しているか。

（根拠：資料「令和3年度一般選抜学生募集要項」

資料「令和3年度学校推薦型選抜Ⅰ学生募集要項」

資料「令和3年度総合型選抜Ⅱ学生募集要項」

資料「令和3年度私費外国人留学生入試学生募集要項」

資料「令和2年度私費外国人留学生入試（工学部特別枠）学生募集要項」

資料「令和3年度第3年次編入学学生募集要項」）

- ・入学者選抜の試験実施にかかる実施要領、実施マニュアル等は整備されているか。

A

<p>(要項, マニュアル等の名称: 「令和3年度個別学力検査実施要項」 「令和3年度工学部学校推薦型選抜Ⅰ実施要項」 「令和3年度工学部総合型選抜Ⅱ実施要項」 「令和3年度工学部私費外国人留学生選抜実施要項」 「令和2年度工学部私費外国人留学生入試(工学部特別枠)実施要項」 「令和4年度工学部第3年次編入学試験実施要項」(※コースごとの要項省略) 「2020年度編入学マレーシア・ツイニング・プログラム手引き」)</p> <p>・面接, 実技試験等において評価の公正性を担保する組織的取組の状況を示す資料(面接要領等)はあるか。 (資料の名称:「面接等の留意事項」 「オンライン面接において提出を求める誓約書」)</p> <p>・入試委員会等の実施組織及び入学者選抜の実施体制(組織の役割, 構成, 人的規模・バランス, 組織間の連携・意思決定プロセス・責任の所在等)は整備されているか。 (根拠: 資料「福井大学入学試験実施規程」 資料「工学部及び工学研究科入試委員会要項」)</p> <p>※A 評価の基準: 上記4点について不備・不足はない。</p>	
<p>3. 学生受入方針に沿った学生の受入が行われているかどうかを検証するための取組を行っているか。また, 必要に応じてその結果を入学者選抜の改善に役立てているか。</p> <p>○点検事項</p> <p>・学生の受入状況を検証する組織(入試委員会など), 検証方法を確認できる資料があるか。 (組織の名称: 工学部及び工学研究科入試委員会 工学部入試の在り方検討ワーキング (全学)入試戦略プロジェクト 資料の名称: 「工学部及び工学研究科入試委員会要項」 「令和3年度第1回工学部及び工学研究科入試委員会議事要旨(抜粋)」)</p> <p>・学生の受入状況を検証し, 入学者選抜の改善に反映させたことを示す具体的事例等(改善のための情報収集等の取組を含む)があるか。 (具体的事例: 以下の資料の通り。 資料「平成30年度第4回工学部・工学研究科入試委員会議事要旨(抜粋)」 資料「令和3年度第1回工学部・工学研究科入試委員会議事要旨(抜粋)」 資料「令和元年度工学部入試の在り方検討ワーキング会議メモ(第1回, 第2回)」 資料「第1回入試戦略プロジェクトチーム課題まとめ」 資料「コンサルテーションを踏まえた志願者確保改善案の学長への報告」)</p> <p>※A 評価の基準: 上記2点について不備・不足はない。</p>	A
<p>4. 過去3年間の実入学者数が入学定員に照らし適正であるか, テーマ別様式⑧に基づいて確認する。 ※A 評価の基準: 「入学定員に対する実入学者の割合」が過去3年間 0.9 以上かつ 1.1 未満 C 評価の基準: 「入学定員に対する実入学者の割合」の過去3年間の平均が 0.7 未満又は 1.3 以上 (認証評価では, 0.7 未満の場合が「大幅に下回る」, 1.3 以上の場合が「大幅に超える」と判断される。また, 法人評価では, 当該年度において 0.9 未満又は 1.1 を超える場合に, 文科省から状況確認のため理由を求められる。) (根拠: 資料「工学部入学定員充足状況(テーマ別様式⑧)」 ※令和元年度～令和3年度の間, どの学科も入学定員充足率はA評価の基準を満たしている。)</p>	A

【報告事項】

※取組状況(課題の改善状況及び特筆した成果等の状況を含む)又は現在の状況について、総括したうえで簡潔に分かりやすく説明してください。

2019年度に、アドミッション・ポリシーについて、第3巡目の認証評価の基準に適合するよう、他の2つのポリシーと一体的に改訂を行って公表するとともに(2020年度から適用)、新ポリシーに基づいた選抜方法の概要を決定・公表した。

高大連携活動が活発に実施され(資料「高大連携活動の状況」参照)、入学定員充足率は適正な水準にある。高大連携活動の活発な実施状況とその成果は、第3期現況分析(工学部(教育))において「特色ある点」として取り上げられた。

【改善すべき点とその改善方策】

※自己点検の結果、改善すべき点があった場合は、その内容(どの項目についてか分かるように記載)と改善の方策(現在検討中でも可)を記入してください。

入学生に占める県内出身者が低下している(2012年度195名→2017年度120名)。2021年度に実施した外部コンサルテーションの結果を踏まえて対策を検討した結果、学科ごとのわかりやすいパンフレットを高校生向けに新たに作成することとし、工学部及び工学研究科広報委員会で作業を進めている。

以下、記載不要

【教育内部質保証委員会による意見】

・県内広報戦略を見直しされるとのこと、その効果について高校教員や受験生への調査を踏まえた検証を期待します。

学部・研究科名 国際地域学部

責任者名 岡崎英一

【自己点検・評価シートについて】

- ・各学部・研究科は、学士課程及び大学院課程について、それぞれ点検・評価を実施する
- ・以下の評価項目について、点検を行い、自己評価（3段階評価）を行ってください。

○評価

A：評価項目について、適切に実施している（基準を満たしている）。

B：評価項目について、概ね実施している（概ね基準を満たしている）。

C：評価項目について、実施していない（基準を満たしていない）。

- ・報告事項欄には、評価項目について、当該年度における取組状況や改善状況等について統括し、簡潔に分かりやすく説明してください。
- ・改善すべき点とその改善方策欄には、点検・評価を行った結果、改善すべき点があった場合、その内容と対応方策について記載してください。

【点検・評価項目】	自己評価
<p>1. 学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方が明示されているか。</p> <p>○点検事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「求める学生像」に、入学前に学習しておくことが期待される内容が含まれているか。 ・「入学者選抜の基本方針」に、入学者受入方針を具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用し、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのかに係る記述が含まれているか。 ・学士課程については、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素：（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）についてどのような成果を求めるか）についての記述が含まれているか。 <p>※A 評価の基準：学生受入方針に上記3点（大学院課程では最後を除く2点）が含まれている。</p>	A
<p>2. 学生受入方針に沿って、受入方法（入学者選抜の方法）を採用しており、実施体制により公正に実施しているか。</p> <p>○点検事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学士課程、大学院課程ともに入試の種類ごとに、入学者選抜の方法（学力検査、面接等）が入学者選抜の基本方針に適合しているか。 ・入学者選抜の試験実施にかかる実施要領、実施マニュアル等は整備されているか。 <p>（要項、マニュアル等の名称：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度国際地域学部一般選抜個別学力検査実施要項（前期日程、後期日程） ・令和4年度国際地域学部学校推薦型Ⅱ実施要項 ・令和4年度国際地域学部総合型選抜Ⅰ実施要項 ・令和4年度国際地域学部私費外国人留学生選抜実施要項 ・令和4年度国際地域学部私費外国人留学生選抜（特別枠）実施要項 	A

<ul style="list-style-type: none"> ・面接、実技試験等において評価の公正性を担保する組織的取組の状況を示す資料(面接要領等)はあるか。 (資料の名称: 面接等の留意事項 〔面接評価表, 実技は採点表にて公正に評価を行っている〕) ・入試委員会等の実施組織及び入学者選抜の実施体制(組織の役割, 構成, 人的規模・バランス, 組織間の連携・意思決定プロセス・責任の所在等)は整備されているか。 ・国際地域学部入試・広報委員会及び同委員会要項 <p>※A 評価の基準: 上記4点について不備・不足はない。</p>	
<p>3. 学生受入方針に沿った学生の受入が行われているかどうかを検証するための取組を行っているか。また、必要に応じてその結果を入学者選抜の改善に役立てているか。</p> <p>○点検事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の受入状況を検証する組織(入試委員会など), 検証方法を確認できる資料があるか。 (資料の名称: 学生の受入状況を検証する組織 ・国際地域学部入試・広報委員会及び同委員会要項 ・学生の受入状況を検証し, 入学者選抜の改善に反映させたことを示す具体的事例等(改善のための情報収集等の取組を含む)があるか。 (具体的事例: ・一般選抜部会, 学校推薦型選抜部会, 総合型選抜部会及び私費外国人留学生選抜部会において, 適宜検討を行っている。 特に, 総合型選抜部会においては, 総合型選抜実施前及び実施後に入試の在り方について検討し, 次年度に向けて改善している。) <p>※A 評価の基準: 上記2点について不備・不足はない。</p>	A
<p>4. 過去3年間の実入学者数が入学定員に照らし適正であるか、テーマ別様式⑧に基づいて確認する。</p> <p>※A 評価の基準: 「入学定員に対する実入学者数の割合」が過去3年間 0.9 以上かつ 1.1 未満</p> <p>C 評価の基準: 「入学定員に対する実入学者数の割合」の過去3年間の平均が 0.7 未満又は 1.3 以上 (認証評価では, 0.7 未満の場合が「大幅に下回る」, 1.3 以上の場合が「大幅に超える」と判断される。また, 法人評価では, 当該年度において 0.9 未満又は 1.1 を超える場合に, 文部科学省から状況確認のため理由を求められる。)</p>	A

【報告事項】

※取組状況(課題の改善状況及び特筆した成果等の状況を含む)又は現在の状況について、総括したうえ簡潔に分かりやすく説明してください。

各評価項目について、点検を行った結果、いずれの項目についても適切に実施している(基準を満たしている)ものと考えられる。

【改善すべき点とその改善方策】

※自己点検の結果、改善すべき点があった場合は、その内容(どの項目についてか分かるように記載)と改善の方策(現在検討中でも可)を記入してください。

特になし

以下、記載不要

【教育内部質保証委員会による意見】

- ・項目1については、全学的な学士課程ポリシー見直しにより、改善されている。

学部・研究科名 連合教職開発研究科

責任者名 柳沢 昌一

【自己点検・評価シートについて】

- ・各学部・研究科は、学士課程及び大学院課程について、それぞれ点検・評価を実施する
- ・以下の評価項目について、点検を行い、自己評価（3段階評価）を行ってください。

○評価

A：評価項目について、適切に実施している（基準を満たしている）。

B：評価項目について、概ね実施している（概ね基準を満たしている）。

C：評価項目について、実施していない（基準を満たしていない）。

- ・報告事項欄には、評価項目について、当該年度における取組状況や改善状況等について統括し、簡潔に分かりやすく説明してください。
- ・改善すべき点とその改善方策欄には、点検・評価を行った結果、改善すべき点があった場合、その内容と対応方策について記載してください。

【点検・評価項目】

自己評価

1. 学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方が明示されているか。

○点検事項

- ・「求める学生像」に、入学前に学習しておくことが期待される内容が含まれているか。
- ・「入学者選抜の基本方針」に、入学者受入方針を具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用し、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのかに係る記述が含まれているか。
- ・学士課程については、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素：（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）についてどのような成果を求めるか）についての記述が含まれているか。

※A 評価の基準：学生受入方針に上記3点（大学院課程では最後を除く2点）が含まれている。

A

2. 学生受入方針に沿って、受入方法（入学者選抜の方法）を採用しており、実施体制により公正に実施しているか。

○点検事項

- ・学士課程、大学院課程ともに入試の種類ごとに、入学者選抜の方法（学力検査、面接等）が入学者選抜の基本方針に適合しているか。
- ・入学者選抜の試験実施にかかる実施要領、実施マニュアル等は整備されているか。

（要項、マニュアル等の名称：

連合教職開発研究科の入試の選抜区分において実施要項を作成している。

福井大学大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科
入学試験実施要項（推薦選抜、一般選抜、外国人留学生特別選抜）

A

<ul style="list-style-type: none"> ・面接, 実技試験等において評価の公正性を担保する組織的取組の状況を示す資料(面接要領等)はあるか。 (資料の名称: 面接等の留意事項 〔面接評価表, 実技は採点表にて公正に評価を行っている〕) ・入試委員会等の実施組織及び入学者選抜の実施体制(組織の役割, 構成, 人的規模・バランス, 組織間の連携・意思決定プロセス・責任の所在等)は整備されているか。 <p>※A 評価の基準: 上記4点について不備・不足はない。</p>	
<p>3. 学生受入方針に沿った学生の受入が行われているかどうかを検証するための取組を行っているか。また, 必要に応じてその結果を入学者選抜の改善に役立てているか。</p> <p>○点検事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の受入状況を検証する組織(入試委員会など), 検証方法を確認できる資料があるか。 (資料の名称: 学生の受入状況を検証する組織 福井大学大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科入試広報委員会要項) ・学生の受入状況を検証し, 入学者選抜の改善に反映させたことを示す具体的事例等(改善のための情報収集等の取組を含む)があるか。 (具体的事例: ・連合教職開発研究科では, 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインによる入試体制を整備した。) <p>※A 評価の基準: 上記2点について不備・不足はない。</p>	A
<p>4. 過去3年間の実入学者数が入学定員に照らし適正であるか, テーマ別様式⑧に基づいて確認する。 過去3年間の入学定員に対する実入学者の割合の平均は 0.9(R1:0.78, R2:1.1, R3:0.82)であり, 適正である。</p> <p>※A 評価の基準: 「入学定員に対する実入学者数の割合」が過去3年間 0.9 以上かつ 1.1 未満 C 評価の基準: 「入学定員に対する実入学者数の割合」の過去3年間の平均が 0.7 未満又は 1.3 以上 (認証評価では, 0.7 未満の場合が「大幅に下回る」, 1.3 以上の場合が「大幅に超える」と判断される。また, 法人評価では, 当該年度において 0.9 未満又は 1.1 を超える場合に, 文部科学省から状況確認のため理由を求められる。)</p>	A

【報告事項】

※取組状況(課題の改善状況及び特筆した成果等の状況を含む)又は現在の状況について、総括したうえ簡潔に分かりやすく説明してください。

点検項目に沿って、カリキュラムポリシーの見直しを行った。また、オンライン入試の体制を整えた。

【改善すべき点とその改善方策】

※自己点検の結果、改善すべき点があった場合は、その内容(どの項目について分かるように記載)と改善の方策(現在検討中でも可)を記入してください。

教職大学院への一元化以降、授業研究・教職専門性開発コースの定員充足が課題となっている。R3年度入試より実施している当該コースの推薦選抜でも、R4年度入試では定員10名のところ志願者数及び合格者数が5名に留まった。現在入試広報の拡大を進めているが、入学者選抜についても更なる工夫と改善が必要である。

以下、記載不要

【教育内部質保証委員会による意見】

- ・引き続き、定員充足策の着実な実行を期待します。

学部・研究科名：医学系研究科

責任者名：医学系研究科長 藤枝 重治

【自己点検・評価シートについて】

- ・各学部・研究科は、学士課程及び大学院課程について、それぞれ点検・評価を実施する
- ・以下の評価項目について、点検を行い、自己評価（3段階評価）を行ってください。

○評価

A：評価項目について、適切に実施している（基準を満たしている）。

B：評価項目について、概ね実施している（概ね基準を満たしている）。

C：評価項目について、実施していない（基準を満たしていない）。

- ・報告事項欄には、評価項目について、当該年度における取組状況や改善状況等について統括し、簡潔に分かりやすく説明してください。
- ・改善すべき点とその改善方策欄には、点検・評価を行った結果、改善すべき点があった場合、その内容と対応方策について記載してください。

【点検・評価項目】

自己評価

1. 学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方が明示されているか。

○点検事項

- ・「求める学生像」に、入学前に学習しておくことが期待される内容が含まれているか。
 - ・「入学者選抜の基本方針」に、入学者受入方針を具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用し、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのかに係る記述が含まれているか。
 - ・学士課程については、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素：（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）についてどのような成果を求めるか）についての記述が含まれているか。
- ※A 評価の基準：学生受入方針に上記3点（大学院課程では最後を除く2点）が含まれている。

A

2. 学生受入方針に沿って、受入方法（入学者選抜の方法）を採用しており、実施体制により公正に実施しているか。

○点検事項

- ・学士課程、大学院課程ともに入試の種類ごとに、入学者選抜の方法（学力検査、面接等）が入学者選抜の基本方針に適合しているか。
- ・入学者選抜の試験実施にかかる実施要領、実施マニュアル等は整備されているか。
（要項、マニュアル等の名称：
・医学系研究科の入試の選抜区分において実施要項を作成している。

A

【大学院課程】・医学系研究科博士課程入学者選抜試験実施要項

・医学系研究科看護学専攻（修士課程）入学者選抜試験実施要項（一般選抜、社会人特別選抜）

<ul style="list-style-type: none"> ・面接、実技試験等において評価の公正性を担保する組織的取組の状況を示す資料(面接要領等)はあるか。 (資料の名称: ・医学系研究科(博士課程)入学者選抜試験に係る実施日程及び口頭試問担当教員への連絡事項 〔口頭試問採点票にて公正に評価を行っている〕 ・医学系研究科看護学専攻(修士課程)入学者選抜方法等 〔面接評価票にて公正に評価を行っている〕) ・入試委員会等の実施組織及び入学者選抜の実施体制(組織の役割, 構成, 人的規模・バランス, 組織間の連携・意思決定プロセス・責任の所在等)は整備されているか。 ※A 評価の基準: 上記4点について不備・不足はない。 	
<p>3. 学生受入方針に沿った学生の受入が行われているかどうかを検証するための取組を行っているか。また、必要に応じてその結果を入学者選抜の改善に役立てているか。</p> <p>○点検事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の受入状況を検証する組織(入試委員会など), 検証方法を確認できる資料があるか。 (資料の名称: 学生の受入状況を検証する組織 ・大学院博士課程委員会(大学院医学系研究科(博士課程)入学者選抜実施要項・申し合わせ事項等) ・大学院修士課程委員会(大学院医学系研究科看護学専攻(修士課程)入学者選抜方法等)) ・学生の受入状況を検証し, 入学者選抜の改善に反映させたことを示す具体的事例等(改善のための情報収集等の取組を含む)があるか。 (具体的事例: ・医学系研究科博士課程及び修士課程のアドミッションポリシーを含む3ポリシーの見直しを行った。) <p>※A 評価の基準: 上記2点について不備・不足はない。</p>	A
<p>4. 過去3年間の実入学者数が入学定員に照らし適正であるか, テーマ別様式⑨に基づいて確認する。 ※A 評価の基準: 「入学定員に対する実入学者数の割合」が過去3年間 0.9 以上かつ 1.1 未満 C 評価の基準: 「入学定員に対する実入学者数の割合」の過去3年間の平均が 0.7 未満又は 1.3 以上 (認証評価では, 0.7 未満の場合が「大幅に下回る」, 1.3 以上の場合が「大幅に超える」と判断される。また, 法人評価では, 当該年度において 0.9 未満又は 1.1 を超える場合に, 文部科学省から状況確認のため理由を求められる。)</p>	B

【報告事項】

※取組状況(課題の改善状況及び特筆した成果等の状況を含む)又は現在の状況について、総括したうえで簡潔に分かりやすく説明してください。

・令和3年6月17日開催の大学院博士課程委員会及び7月8日開催の大学院修士課程委員会においてアドミッションポリシーの見直し案について承認された。

【改善すべき点とその改善方策】

※自己点検の結果、改善すべき点があった場合は、その内容(どの項目について分かるように記載)と改善の方策(現在検討中でも可)を記入してください。

- ・1については、策定ガイドライン及び機関別認証評価基準に沿ったものに修正するように対応を行った。(第3期4年終了時法人評価現況調査結果書面調査シートに挙げられたコメント項目)
- ・入学定員に対する実入学者数の割合を改善する必要があるため、方策を検討する。

以下、記載不要

【教育内部質保証委員会による意見】

- ・引き続き、定員充足策の着実な実行を期待します。

学部・研究科名 工学研究科

責任者名 福井 一俊

【自己点検・評価シートについて】

- ・各学部・研究科は、学士課程及び大学院課程について、それぞれ点検・評価を実施する
- ・以下の評価項目について、点検を行い、自己評価（3段階評価）を行ってください。

○評価

A：評価項目について、適切に実施している（基準を満たしている）。

B：評価項目について、概ね実施している（概ね基準を満たしている）。

C：評価項目について、実施していない（基準を満たしていない）。

- ・報告事項欄には、評価項目について、当該年度における取組状況や改善状況等について統括し、簡潔に分かりやすく説明してください。
- ・改善すべき点とその改善方策欄には、点検・評価を行った結果、改善すべき点があった場合、その内容と対応方策について記載してください。

【点検・評価項目】

自己評価

1. 学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方が明示されているか。

○点検事項

- ・「求める学生像」に、入学前に学習しておくことが期待される内容が含まれているか。
- ・「入学者選抜の基本方針」に、入学者受入方針を具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用し、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのかに係る記述が含まれているか。
- ・学士課程については、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素：（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）についてどのような成果を求めるか）についての記述が含まれているか。

※A 評価の基準：学生受入方針に上記3点（大学院課程では最後を除く2点）が含まれている。

（根拠：資料「博士前期課程アドミッション・ポリシー」

資料「博士後期課程アドミッション・ポリシー」

A

2. 学生受入方針に沿って、受入方法（入学者選抜の方法）を採用しており、実施体制により公正に実施しているか。

○点検事項

- ・学士課程、大学院課程ともに入試の種類ごとに、入学者選抜の方法（学力検査、面接等）が入学者選抜の基本方針に適合しているか。

（根拠：資料「令和3年度大学院工学研究科（博士前期課程）学生募集要項（推薦・一般・社会人特別・外国人留学生特別）」

資料「大学院工学研究科（博士後期課程）学生募集要項（一般・社会人特別・外国人留学生特別、令和2年度10月入学、令和3年度4月入学）」

資料「国際総合工学特別コース（GEPIS）募集要項（2020年度秋入学・2021

A

<p>年度春入学)」 資料「国際技術研究者育成コース（GEP for R&D）学生募集要項（2020年度秋入学・2021年度春入学）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜の試験実施にかかる実施要領、実施マニュアル等は整備されているか。 （要項、マニュアル等の名称： 「令和4年度工学研究科博士前期課程（推薦選抜）入学試験実施要項」（※コースごとの要項省略） 「令和4年度工学研究科博士前期課程（一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜）入学試験実施要項」（※コースごとの要項省略） 「工学研究科博士後期課程入学試験実施要項（令和3年度10月入学，令和4年度4月入学）」） ・面接、実技試験等において評価の公正性を担保する組織的取組の状況を示す資料（面接要領等）はあるか。 （資料の名称：面接等の留意事項，オンライン面接において提出を求める誓約書） ・入試委員会等の実施組織及び入学者選抜の実施体制（組織の役割，構成，人的規模・バランス，組織間の連携・意思決定プロセス・責任の所在等）は整備されているか。 （根拠：資料「福井大学入学試験実施規程」 資料「工学部及び工学研究科入試委員会要項」） <p>※A 評価の基準：上記4点について不備・不足はない。</p>	
<p>3. 学生受入方針に沿った学生の受入が行われているかどうかを検証するための取組を行っているか。また、必要に応じてその結果を入学者選抜の改善に役立てているか。</p> <p>○点検事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の受入状況を検証する組織（入試委員会など），検証方法を確認できる資料があるか。 （組織の名称： 工学部及び工学研究科入試委員会 資料の名称： 「工学部及び工学研究科入試委員会要項」 「令和3年度第1回工学部・工学研究科入試委員会議事要旨（抜粋）」） ・学生の受入状況を検証し，入学者選抜の改善に反映させたことを示す具体的事例等（改善のための情報収集等の取組を含む）があるか。 （具体的事例：以下の資料の通り。 資料「平成30年度第4回工学部・工学研究科入試委員会議事要旨」 資料「令和3年度第1回工学部・工学研究科入試委員会議事要旨（抜粋）」） <p>※A 評価の基準：上記2点について不備・不足はない。</p>	A
<p>4. 過去3年間の実入学者数が入学定員に照らし適正であるか，テーマ別様式⑧に基づいて確認する。</p> <p>※A 評価の基準：「入学定員に対する実入学者の割合」が過去3年間 0.9 以上かつ 1.1 未満 C 評価の基準：「入学定員に対する実入学者の割合」の過去3年間の平均が 0.7 未満又は 1.3 以上 （認証評価では，0.7 未満の場合が「大幅に下回る」，1.3 以上の場合が「大幅に超える」と判断される。また，法人評価では，当該年度において 0.9 未満又は 1.1 を超える場合に，文科省から状況確認のため理由を求められる。） （根拠：資料「工学研究科入学定員充足状況（テーマ別様式⑧）」 ※博士前期課程全体，博士後期課程とも，「過去3年間の平均が 0.7 未満又は 1.3 以上」には抵触しないが「過去3年間 0.9 以上かつ 1.1 未満」に抵触する年度がある。博士前期課程では，改組前の 2019 年度は 10 専攻中の 9 専攻が「0.9 以上かつ 1.1 未満」に抵触していたが，改組後に抵触するのは 3 専攻中の 1 専攻であり，改組による適正化が進んでいる。）</p>	B

【報告事項】

※取組状況(課題の改善状況及び特筆した成果等の状況を含む)又は現在の状況について、総括したうえ簡潔に分かりやすく説明してください。

2019年度に、博士前期課程と博士後期課程のアドミッション・ポリシーを、第3巡目の認証評価の基準に適合するよう、他の2つのポリシーと一体的に改訂し、公表した(2020年度から適用)。

2020年度に博士前期課程を改組して10専攻から3専攻の体制に移行したことにより、志願倍率や入学定員充足率が専攻ごとに大きくばらついて基準から大きく逸脱することもあった状況はかなり改善された。

博士後期課程の入学定員充足率は、2020年度に90%を下回り、2021年度には110%を大きく上回るなど年度による変動が大きいですが、3年間の平均は100%と良好な水準である。

【改善すべき点とその改善方策】

※自己点検の結果、改善すべき点があった場合は、その内容(どの項目についてか分かるように記載)と改善の方策(現在検討中でも可)を記入してください。

- ・博士前期課程(改組後)の入学定員充足率:「0.9以上かつ1.1未満」には博士前期課程全体としては抵触していないが、1つの専攻が2020年度と2021年度に抵触している。2022年度入試からきめ細かい定員管理を行っており、その取組を継続する。
- ・博士後期課程の入学定員充足率:2020年度と2021年度に「0.9以上かつ1.1未満」に抵触している。博士後期課程では、0.9を下回らないことに力点を置いており、今後もそれを基本としつつ、1.1を超えないことにも注意を払った定員管理を行う。

以下、記載不要

【教育内部質保証委員会による意見】

- ・引き続き、定員充足策の着実な実行を期待します。

<p>・入試委員会等の実施組織及び入学者選抜の実施体制(組織の役割, 構成, 人的規模・バランス, 組織間の連携・意思決定プロセス・責任の所在等)は整備されているか。 ※A 評価の基準: 上記4点について不備・不足はない。</p>	
<p>3. 学生受入方針に沿った学生の受入が行われているかどうかを検証するための取組を行っているか。また, 必要に応じてその結果を入学者選抜の改善に役立てているか。 ○点検事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の受入状況を検証する組織(入試委員会など), 検証方法を確認できる資料があるか。 (資料の名称: 学生の受入状況を検証する組織 国際地域マネジメント研究科入試・広報部会及び同部会設置要項 ・学生の受入状況を検証し, 入学者選抜の改善に反映させたことを示す具体的事例等(改善のための情報収集等の取組を含む)があるか。 (具体的事例: 2020年度に設置された本研究科では, 設置後2年目で文科省の監督下にあり, 改善に取り組む状況ではない。 <p>※A 評価の基準: 上記2点について不備・不足はない。</p>	
<p>4. 過去3年間の実入学者数が入学定員に照らし適正であるか, テーマ別様式⑧に基づいて確認する。 2020年度に設置された本研究科では, 過去3年間の入学者実績がないため, 確認できない。 参考: 過去2年間の実績は, 定員7に対し入学者8で, 比率は1.14である。</p> <p>※A 評価の基準: 「入学定員に対する実入学者数の割合」が過去3年間 0.9 以上かつ 1.1 未満 C 評価の基準: 「入学定員に対する実入学者数の割合」の過去3年間の平均が 0.7 未満又は 1.3 以上 (認証評価では, 0.7 未満の場合が「大幅に下回る」, 1.3 以上の場合が「大幅に超える」と判断される。また, 法人評価では, 当該年度において 0.9 未満又は 1.1 を超える場合に, 文部科学省から状況確認のため理由を求められる。)</p>	

【報告事項】

※取組状況(課題の改善状況及び特筆した成果等の状況を含む)又は現在の状況について、総括したうえ簡潔に分かりやすく説明してください。

各評価項目について、点検を行った結果、いずれの項目についても適切に実施している(基準を満たしている)ものと考えられる。

【改善すべき点とその改善方策】

※自己点検の結果、改善すべき点があった場合は、その内容(どの項目について分かるように記載)と改善の方策(現在検討中でも可)を記入してください。

なし

以下、記載不要

【教育内部質保証委員会による意見】

- ・項目3. とりあえず「学生受入方針に沿った学生の受入が行われているかどうかを検証するための取組」を進めてはいかがでしょうか。